

病害虫防除技術情報（No. 1） —防除技術—

アカヒゲホソミドリカスミカメの高密度発生源とその除去対策

水田周辺の休耕田等では、アカヒゲホソミドリカスミカメが高密度で発生する場合があります。

高密度発生源圃場を耕耘し、餌植物を除去することにより、水田への大量飛来、斑点米被害を防ぐことができる。

1. アカヒゲホソミドリカスミカメは、放任イタリアンライグラス圃場やスズメノテッポウ、スズメノカタビラ等のイネ科雑草繁茂休耕田で、高密度に発生し、水田への大量飛来が起こる場合があります。
2. 6月～7月の定期的なすくい取り調査により休耕田等のアカヒゲホソミドリカスミカメ高密度発生源を確認し、耕耘を行うことにより発生密度を大きく低減できる。耕耘後に作物を作付けする場合はイネ科以外の作物を選定する。

【アカヒゲホソミドリカスミカメ高密度発生源】



放任イタリアンライグラス転作田



アカヒゲホソミドリカスミカメ
(左：幼虫、右：成虫)



スズメノテッポウが繁茂する休耕田

【耕耘による発生源除去対策】

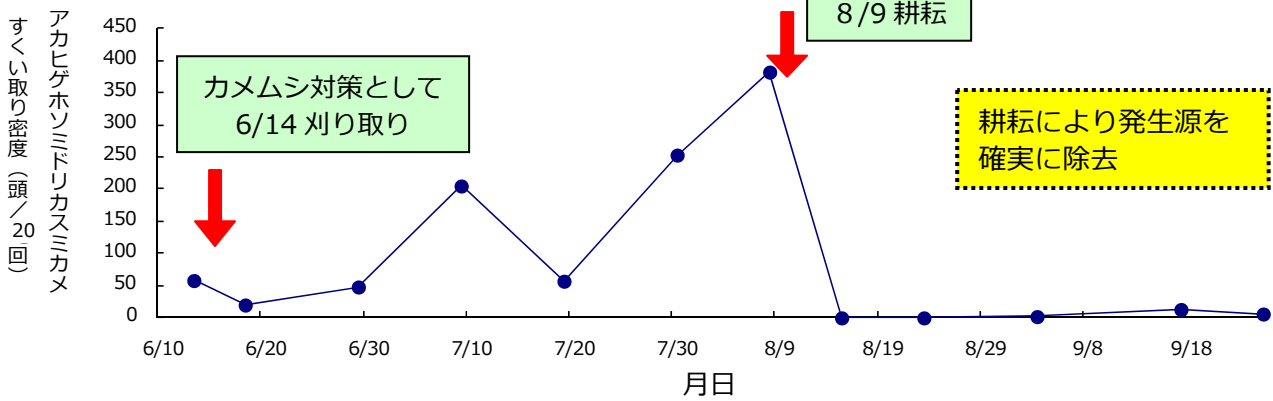


耕耘により食草を除去

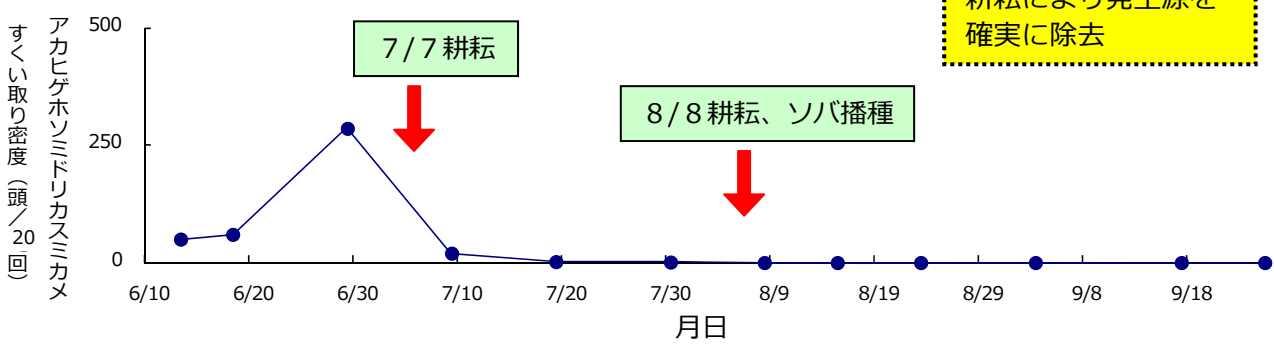


耕耘後にソバ播種

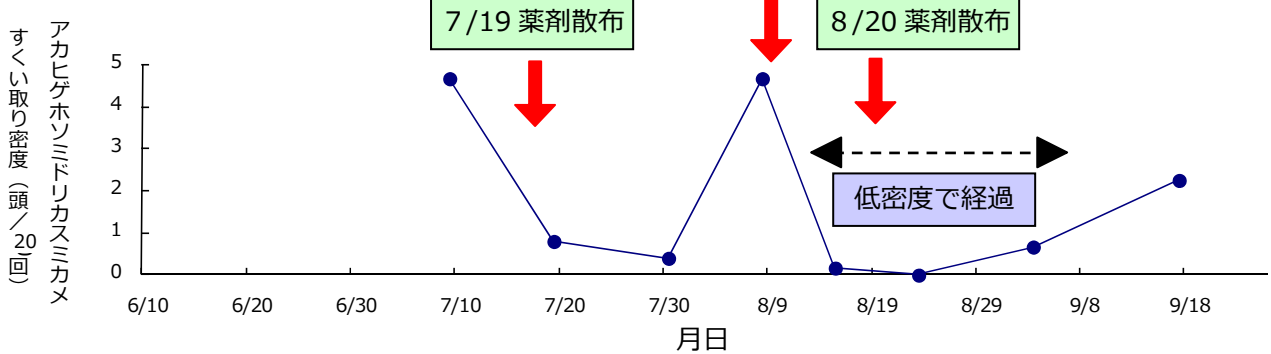
【放任イタリアンライグラス転作田の耕耘対策】



【イネ科雑草繁茂休耕田の耕耘対策】



【水田 (平均値)】



【留意事項】

出穂直前に高密度発生源対策を行った場合、イネの出穂とともに水田へのアカヒゲホソミドリカスミカメ大量飛来の恐れがあるので、穂揃期とその7～10日後の基本的な2回の薬剤散布は広域一斉に必ず行う。また、畦畔・農道等の雑草管理は常日頃から励行する。

問い合わせ先 山形県病害虫防除所
TEL : 0235-78-3115

執筆者 : 渡辺和弘、石井正一
e-mail : ybyogaichu@pref.yamagata.jp